

福島で「愛と微生物の会」が発足

比嘉セオリーの勉強会がスタート

勉強会発足のきっかけ

2月1日、福島県二本松市の勤労者研修センターで比嘉セオリーを勉強する「愛と微生物の会」が発足し、第1回目の勉強会が開催されました。

この勉強会がスタートするきっかけとなったのは、昨年11月25日に開催された『第7回環境フォーラム』*1の会場で、「エコクラブだて」の女子会のみなさんと福島県世話人の今泉智さんが歓談している中、比嘉先生の『愛と微生物のすべて』をみんなで勉強したいねという会話からでした。彼らが自主的に勉強会を開催したいという願いを実現するため、「エコクラブだて」のリーダーで福島県世話人の遠藤念さんと今泉智さんとの間で勉強会開催の準備が進められました。遠藤念さんがこの会を「愛と微生物の会」と命名し、モデル事業参加団体*2の方を中心に、月例企画として「愛と微生物のすべて」を勉強する会が発足しました。



福島県世話人で勉強会講師の今泉智さん



第1回勉強会の内容

第1回目の勉強会は、モデル事業参加団体の約30名の方とEM研究機構の奥本秀一博士が参加し、2月1日13時から始まりました。勉強会は、「愛と微生物のすべての解説」、「比嘉先生が世界中を飛び回っている理由は何か?」、「フーチダウジング・潜在意識の扉を開く」の3部構成で企画されました。最初に、講師の今泉さんが比嘉セオリーの理解を深めるため、U-ネット通信新年号の比嘉先生の『新年のご挨拶』を引用し、EMの原典とその活用によってEM力がなぜ飛躍的に向上するのかを解説しました。



『愛と微生物のすべて』の解説

次に奥本博士が、「愛と微生物のすべて」について次のように解説されました。EMが効果を上げるためには技術が必要であり、その技術を活用することで素晴らしい結果が得られます。その技術が成立する裏づけとなる理由がこの本に書かれています。我々の体は原子で構成されており、原子を突き詰めて行くと目に見えない粒子や波である量子の世界になります。この時、大切な要素となるものは人間の想いでありエネルギーである「想念」であり、この想念の働き方である「想念の管理」がとても重要になります。周りを取り巻くすべての物に対する愛情が、物をいい方向に動かしていく原点になることなどが、この本に書かれていますと解説していただきました。「この本の内容は難しいですが、繰り返し読んで勉強してください。」と最後に付け加えられました。



比嘉先生が世界中を飛び回っている理由は何か?

この後、今泉さんから「比嘉先生が世界中を飛び回っている理由は何か?」という問題が出され、出席者がひとりずつ自己紹介を兼ねて自分が考える理由を発表しました。「世界中の人々を幸せにするため」、「世界を平和にするため」、「人類を滅亡の危機から救うため」などの壮大な理由から、「現場の情報入手のため」、「奉仕活動のため」など現実的な理由もありました。そして次の通り、素晴らしい理由を語ってくださった方がいらっしゃいました。



「人は死んでもそれで生は終わりではありません。人には輪廻転生があり必ず生まれ変わります。生死を繰り返すのであればいい事をし続けなくてはなりません。周りを取り巻くすべての物に対する愛情が、物事をいい方向に動かす原点になります。自分だけ満足してしまい、周りが疎かになってしまうと結局自分も幸せになれません。できるだけ多くの人、微生物も含めて、生き物すべてが幸せな方向に進んで行ってほしいと比嘉先生は考えています。利他の愛です。比嘉先生にはその意識が働いているので、がんばって世界中を飛び回ってられるのだと思います。」

【取材：伊藤由規】



*1 「うつくしまEMパラダイス・環境フォーラム」は、EMが放物線を消滅する事実を事例発表するフォーラムです。2011年以降、毎年福島市で開催されています。

*2 原発事故後、U-ネットは福島県及び近隣県で被災した55の事業団体を「復興推進EM活用モデル事業参加団体」に指定し、EMによる環境修復支援活動を開始しました。